

津田塾大学における学外学修の取り組み ーギャップタームと女性のエンパワーメントー

津田塾大学
敦賀和外

1. 津田塾大学におけるギャップタームの導入と学外学修制度の整備について

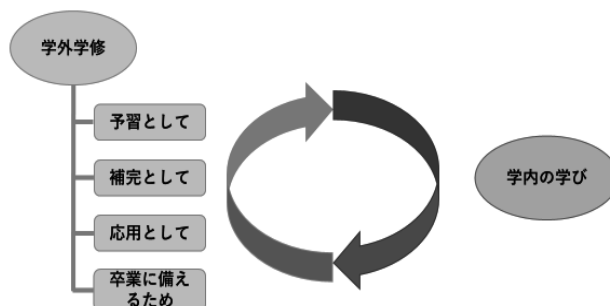
2016年度まで



2017年度から



学外学修の位置づけ



大学の学びと循環させ、より自律的に学ぶための仕組み

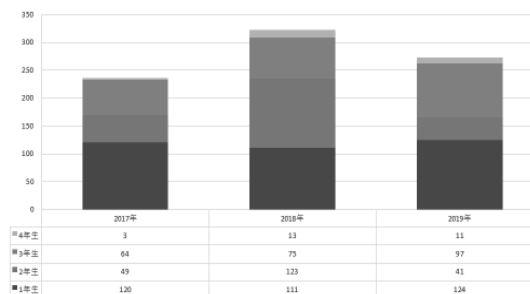
学外学修科目の設置

- ▶ インターンシップ (就労体験)
- ▶ サービスラーニング (社会奉仕体験)
- ▶ インデペンデントスタディ (短期研修、自主研究)



2. 実績

学外学修 参加者数 (学年別)



1、2年生が参加者の50%超

参加者の声

このインターンを通じて第2タームという制度はとても自分の経験を深めるという点で有効な期間だと感じました。

(国際関係学科1年。企業でのインターンシップに参加)

理系職といわれるSEについて学んだことで、自分の専攻の活かし方についても考える機会となった。・・・そして今回の一番の成果は、今回の活動がモチベーションとなって、終了後から既に別のインターンシップにも複数参加しはじめたことだと感じている。

(数学科3年。企業での研修に参加)

このインデペンデントスタディに参加をしたことで、1番の大きな成果は自分自身に自信を持つことができるようになった事だと自信を持っていうことができるようになりました。

(国際関係学科3年。企業での研修に参加)

結論

「しない (し過ぎない)」ことで学びを促す

- 必修科目を設置しない - 学生たちの学ぶ時間の裁量を増やす
- プログラムの作り込みをしない - 自ら探究する幅を増やす
- 派遣/準備の手出しをしない - 学生に責任感を持たせる